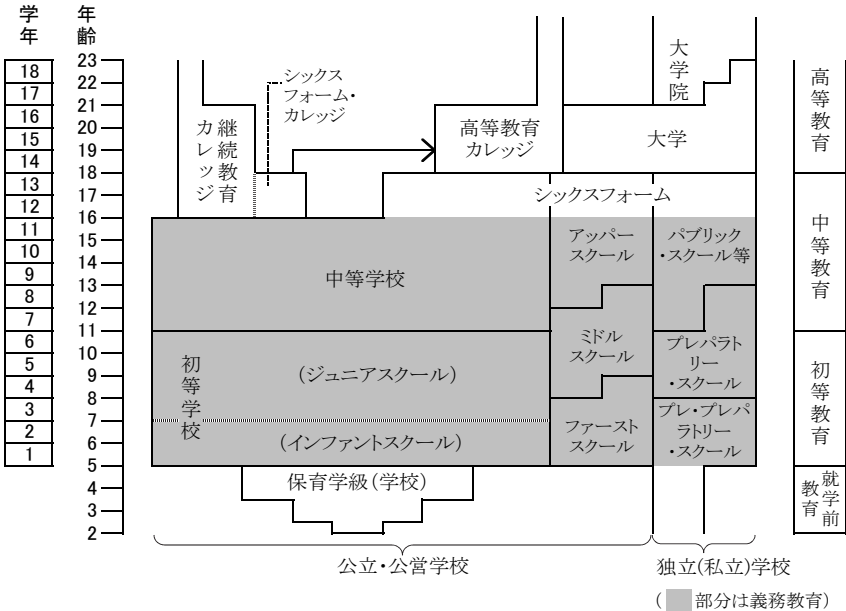


8 教育・職業能力開発

第8-2-3表 イギリスの学校系統図

Table 8-2-3: School system, UK



資料出所 文部科学省(2017.9)「平成29年版諸外国の教育統計」

就学前教育: 保育学校及び初等学校付設の保育学級で行われる。

義務教育: 5～16歳までの11年間。

初等教育: 通常6年制の初等学校で行われる。初等学校は、5～7歳を対象とする前期2年(インファント)と7～11歳のための後期4年(ジュニア)とに区分される。両者は1つの学校として併設されているのが一般的であるが、一部にはインファントスクールとジュニアスクールとして別々に設置しているところもある。また一部において、インファント(スクール)・ジュニア(スクール)に代えてファーストスクール及びミドルスクールが設けられている。

中等教育: 通常11歳から始まり、7年間続く。最後の2年間は義務教育後となるが、就職者もパートタイムの教育・訓練の継続が義務づけられている。公費により維持される中等学校は原則無選抜(コンプリヘンシブ・スクールと呼ばれる)だが、選抜制の学校(グラマー・スクール)とモダン・スクールに振り分ける地域も一部にある。義務教育後の中等教育の課程・機関としては、中等学校に設置されているシックスフォームと呼ばれる課程及び独立の学校として設置されているシックスフォーム・カレッジがある。ここでは、主として高等教育への進学準備教育が行われる。初等・中等学校は、経費負担などの観点から、地方当局が設置・維持する公立・公営学校及び公費補助を受けない独立学校に大別される。近年、国の直接補助により維持されるが設置・運営面で独立校に近いアカデミー(公営独立学校)が増えている。独立学校には、いわゆるパブリック・スクール(11又は13～18歳)やプレパラトリー・スクールなどが含まれる。

高等教育: 機関としては、大学がある(ユニバーシティ・カレッジやスクールを名称に用いる機関もある)。これらの機関には、第一学位(学士)課程(通常修業年限3年間)や上級学位の課程のほか、応用準学位などの短期の課程もある。1993年以前は、このほか、ポリテクニク(34校)があったが、すべて大学となった。また、継続教育カレッジにおいても、高等教育レベルの課程が提供されている。

継続教育: 義務教育後の多様な教育を指すもので、一般に継続教育カレッジと総称される各種の機関において行われる。青少年や成人に対し、全日制、昼・夜間のパートタイム制などにより、職業教育を中心とする多様な課程が提供されている。

(注) 上記学校系統図はイングランドとウェールズについてのものであり、スコットランド及び北アイルランドにおいては共通性を持ちつつも特色ある教育制度を形成している。